

具体化の検討

東大阪市中小企業振興会議 農業振興検討部会 2017.3.1

【農家側から見ると】

- お手伝いをして欲しい方は、実際は草むきとか、栽培過程の一時期だけ手がほしい。
- いい意味でも悪い意味でも結構プライドを持っている方が多くおられていて、仮に定植をまかせてもらえるのかというと、それは困るところもある。
- 野菜の場合をみると、草むきとかキツイ仕事や、夏場の暑い時の水やりとかを期待されている。
- コメでも手伝ってほしい作業として稲刈り、田植えというのが頭にきているが殆どの場合が機械作業であり、機械作業は農家がするが機械が入らないキツイところの作業をして欲しいというのが多分あると思う。
- 市民の方で栽培経験あるのは割り果実類で実のなるのが多いとあるが、農家でも家庭菜園の方は色々作っているが出荷する程度の作物になると果実類は意外とない。
- 大事な仕事はさせたくないというのがある。
- 作業全体を、もう高齢でやっていけない。今までなら田植えだけ、稲刈りだけだったのが出来る事なら全て、最初の耕運から稲刈りまでコメになるまでやってもらえないかな、という話は年々増えてきている。
- 手伝ってもらいたい方はシンドイ地味な作業を望んでいる。
- 手伝ってもらいたい人は「農作業をよく知っている人」というのが圧倒的に多い訳で、そういった意味でいうとそういう人になっていただいて受入れるというのが農家の基本的な思いかなと思いますだからといって1番シンドイ草刈りとかをしてほしいので、「指示通りやってくれる人」でもいいのかなと思う
- 収穫だとか定植だとか種まきだとかというと、その行為自身をいい加減にされると商品価値が減っていくとか、収量が減るとかなるので、そういう所を手伝うとなるとそれなりの人かなと思います

【市民側から見ると】

- 市民の方はどちらかと言えば土・日に楽しみたいという意味がこのアンケートから見ると思う。
- 市民の方で栽培経験あるのは割り果実類で実のなるが多い。
- 市民の方は収穫して面白いので参加したいという気があるので、その辺がちよっと農家とズレがある
- 手伝いたい方は楽しいと思う作業がしたいのではないかな。
- 非日常のことをやりたいというのは確かに感じている人は(いるのではないかな)。土を触ること、そのものがしたいという人もいますよね。

援農ボランティア、農家サポーターバンクシステムの構築イメージ

A システム化

1. システムを管理する受け皿の設置と周知・PR
(例)農政課、農業委員会、JA、農業振興啓発協議会、新たな組織
周知・PRの検討
2. 援農を希望する農家の情報を登録
詳細情報(個人情報)と公開情報は区別する
3. 援農を希望する個人・団体の情報を登録
詳細情報(個人情報)と公開情報は区別する
4. マッチングの手法
 - ①双方が掲示板・書き込みの閲覧から連絡
 - ②受け皿が仲介

- 援農側は個人に限らず、大学、小中学校、福祉施設、NPO法人、消費者団体等多様に考えられる可能性がある
- 将来展望として、援農側のメリット・見返りに結び付けるものとして、援農を収穫だけに終わらせず、収穫後の援農側の有効利用・加工品づくりの構想・施策もでないか
- 多様なニーズ、多様なアプローチのなかで、本市に即した手法の検討を

【マッチング・システムについて】

- (農家側と援農側の意向には)ズレがある、システムでマッチングというのがうまく機能するか、かなりこのところがポイントになるかなと思う。
- 生産緑地にしても納税猶予農地にしても放耕規制とかそういうところの規制が結構キビシイところがあろうか思います
- 食農教育で幼稚園・小学校のそういう場所で援農の方にボランティアで手伝ってもらおうとか、食農教育の場とかでお手伝い出来る様な、そういうシステムの方に手伝っていただけると助かる。
- 家庭菜園講習会とか、農家が育成コーチをするのとあるが、東京の練馬とかがやっている農家が教えて、そこで栽培する、参加費をとってという、そっちへいくのも一つの方法なのかなと思ったりもする
- 無償となると、せっかく来てもらった人にも失礼な様に思う。願う方にしては気が引ける様な感じがします。
- (農作業をよく知っている人)その所はどこかの機関が育成をするのか、それとも農家さん自身と気のあった者同士でそういう援農者を教育していただくのか、色んなやり方があるんだろうと思うんですけども、それだけということではなくて色々な手法を構築出来ればいいのかと。
- 体験事業に取組むなかで、農家さんと知り合う機会も増える訳で、それだけでも援農サポート構築のための仕組みになると思います
- 掲示板で書き込んでいただくなり、手伝いたい・手伝って欲しいという人があればそういう情報を農家さんに、あるいは市民の方にお渡しをして後はお互いに話し合いをしていただく、その中で無償ではなくて有償でという話に踏込んでもらってもいい
- 援農を収穫だけに終わらせず援農側の有効利用・加工品づくりの構想」というところもイメージ的には描きやすいのかな
- 達成感を何に設定するかということも一つのポイントになるのかなと思う。
- 出来上がったものを2次加工してこういう製品にしますよという実例も色々聞かせていただいで、そういうところにボランティアの方が参画の方がむしろ、農家さん側も将来的にこの農作物がどういうイメージ、製品になっていくんやというイメージ等、一般消費者の方が援農されて、こういうものになっていくんや、というイメージが合えば結構面白いかな
- あれもこれもというよりも何か一つのビジョンなりモデルケースを描いてそれを実現化していく過程づくりをしていくのがいいのかなと考えた
- 草刈りだけやったら、その日だけでキレイになったな、で終わってしまいますんで、やはり最初から最後まで決めて、手伝ってもらう人にも最後お礼が渡せて喜びも与えるような、せめて半年から1年スパンを考えていただいたらいいんじゃないかなと思う。
- 普段の手入れからブドウの収穫、その後の加工品づくりまで、ブドウのジュレまで作って販売しているところもあり、そういうことまでやると、やりがいあるかなと思います。ただ単発の仕事は結構あると思うんですよ。そこが現状との難しいところかなと思います。
- 色々なニーズがあると思うので、そのニーズを区分けしながらというか、そういうシステム化があってもいいかなという気はします

B ボランティア養成・体験事業

1. 体験事業として募集する
 - ①(作物を限定して作業をしてもらう)キュウリ栽培作業出来ます! ホウレン草栽培作業出来ます! 米作業手伝えます!
 - ②(農地にきてもらう)草刈りできます! 農作業できます!
2. 家庭菜園講習会として作業をもらう
3. 農家が育成コーチ(農業ヘルパー育成)となって、栽培技術を教えながら作業を手伝ってもら